Dec　2014　No. 44

大垣市金生山化石館

化石館だより

コラム

金生山のカルスト地形

石灰岩は風化に対しては比較的強く、地盤が隆起している地域では伊吹山や藤原岳のように大きな山が生じます。一方、石灰岩は酸性の雨によって溶解しますので、石灰岩地域にはカルストとよばれる独特の地形が形成されます。雨水は地表面だけでなく、岩の割れ目から地下にしみ込んで石灰岩を溶かしていきますので、鍾乳洞などの地下地形がつくられます。カルスト地形とは、地表面だけでなく地下の地形も含めています。

金生山を構成している赤坂石灰岩は、南北2km、東西1kmというごく狭い範囲にしか分布していません。従って規模は小さいのですが金生山にもカルスト地形の片りんを見ることができます。

石灰岩の採掘が本格化する前の金生山は、一面草に覆われ、松や小灌木が茂り、いたる所に大きな石灰岩が顔をのぞかせていました。今では石灰岩の採掘が進み山は大きくえぐり取られていますので、かつての地表面は神社や寺の境内など、ごく一部分にしか残されていませんが、明星輪寺へ向かう参道脇には、溶食によって丸みを帯びた石灰岩がいくつも地表面に顔を出しており、カルストの面影が偲ばれます。また境内奥の「岩巣公園」には、巨大な石灰岩が林立しており独特の景観を構成しています。金生山の溶食された石灰岩は、「太閤石」「太湖石」と称し、庭石として珍重されたこともありました。

金生山には鍾乳洞もありました。観光洞にするほどの規模ではなく小規模なものですが、石灰岩の採掘中に発見された鍾乳石や石筍、石柱などの標本がたくさん採集されています。一般に鍾乳洞の中に生成する石のことを総称して鍾乳石とよんでいますが、本来は洞窟の上面から垂れ下がるような形に形成

されたものが鍾乳石です。その下で上に向かって伸びているものは石筍といい、両者がつながってしまうと石柱となります。これらの石は、石灰岩を溶かし炭酸カルシウムを多く含んだ地下水が雫となって落ちる際、方解石の微細な結晶が生成されることによってつくられました。

石灰岩地域には、石灰岩地特有の動物や植物を見ることができます。陸貝の仲間は石灰岩地域に多くの種類が生息していることが知られています。金生山でも明星輪寺境内が陸貝の生息地として県の天然記念物に指定されており、金生山の山麓も含めれば約５０種が確認されています。植物では、好石灰岩植物のクモノスシダがみられます。

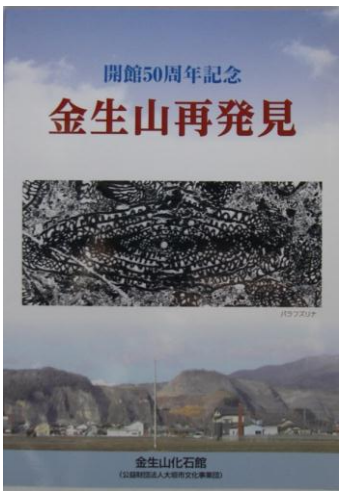
上：鍾乳石　　下：石柱の一部

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆　お 知 ら せ　◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

開館５０周年記念特別企画展
故熊野敏夫先生の愛した化石たち

開催中！

開催期間：　平成２６年１０月１１日（土）～　平成２７年１月３１日（土）
場　　所：　金生山化石館　２階展示室
休 館 日：　火曜日　（祝日の翌日　　年末年始：12/29～1/3　）



「金生山再発見」を刊行

開館５０周年を記念して、化石館のあゆみと金生山の化石や鉱物の紹介、また金生山にかかわる最新の話題を紹介した書物を刊行しました。知っているようで知らなかった、金生山の魅力を再発見してください。

１１月３日発刊　　金生山化石館・文化事業団事務室にて販売中

問い合わせ：　大垣市金生山化石館　　電話　（0584）71-0950　（ファックスも同じ）
Email　kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp